

地域とともに学校を創る



～気高地域学校統合準備委員会だより～

学校種と学校用地の決定に向けた議論の状況を報告します

◆学校種について

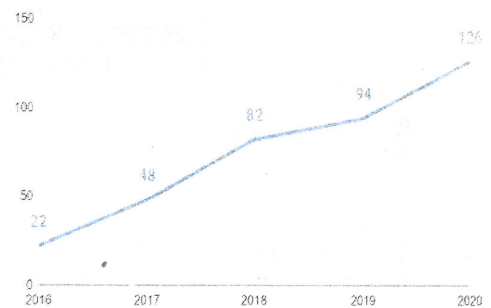
現在、宝木、瑞穂、浜村、逢坂の4小学校の統合とするか、中学校も含めた9年制の新しい校種「義務教育学校」とするかを議論しています。

義務教育学校とは・・・

小学校・中学校の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育をするために平成28年に法制化された新しいタイプの学校。1人の校長、1つの職員組織で運営されます。

現在、鳥取市にも鹿野、湖南、福部、江山地域に地域の要望を受け4校が開校。様々な面での教育の充実が期待できるため、全国的にも増加しています。(右図)

義務教育学校数の推移



◆学校用地について

学校用地の選択については、以下のことを前提とする必要があります。

1. 土砂災害、浸水、津波等の心配がなく児童の登下校時も含めて安全な場所であること。
2. 大多数の児童が徒歩で安全に通学できる場所であること、また遠方の児童については、公共交通機関やスクールバス等を用いて概ね1時間以内で通学できること。
3. 平常の授業中はもとより、通学時や下校時に町民等の目に触れやすく、地域に開かれた学校づくりが行われやすい場所であること。

参考 各校区の児童数
令和3年5月現在 合計367人

宝木小	瑞穂小	浜村小	逢坂小
65人	50人	221人	31人

上記の前提をもとに、現在以下の3つの候補地を挙げて議論を進めています。

- 現在の浜村小学校の敷地あるいは、隣接する町民グラウンド周辺を整備し学校用地とする。
- 現在の気高中学校に隣接する場所を整備し、校舎を建築する。
- 上記、1、2の条件を満たす場所を新たに取得する。

主な意見

- ・既存の施設を活用してでも早期に4つの小学校を統合すべきである。既存施設は様々考えられるが児童数から考えて現在の浜村小学校が妥当ではないか。
- ・地域の将来的な発展や通学の利便性を考慮した新規用地を取得すべきではないか。
- ・現在存在する学校はやむを得ないが、これからつくる学校においては、土砂災害警戒区域や浸水区域を候補に入れるべきではない。
- ・PTAとしては、場所は特に問わないが、通学の負担が新たに増えないところを希望する。
- ・前回、講師の講演で木下先生の話聞いて感銘を受けた。小中一貫教育のために小・中は隣接すべき。
- ・まずは4つの小学校を統合し、更なる気高文化を創造すべき。

上記の意見をもとに3つの候補地について以下のように整理しました。

		既存施設に増築もしくは新築 (浜村小近辺)	中学校に併設	新規用地取得 (浜村駅周辺)
完成までにかかわること(ハード)	用地の取得等	隣接市有地の活用も踏まえ、地域との協議が必要となります。	市有地のため用地を新たに取得する必要はありません。	新たに用地を取得する際、場所、規模、時期等、不確定な面があります。
	着工までの期間	増築部分のみの設計となれば早期に着工、新築となっても造成の必要がないため比較的早期に着工されます。	校舎・体育館・校庭・中学校校舎との連結部分等、総合的な設計が必要となり、やや時間を要します。	用地の取得場所によっては、学校用地にするための各種規制を解除したのち、設計・造成をする必要があり、ある程度の期間が必要です。
	工事期間の長さ	造成の必要はありませんが、既存施設の劣化具合の診断が必要となります。	設計によっては一部造成が必要な可能性があります。	造成等が必要となります。
	整備コスト	体育館等は既存施設を活用できます。進入路等の整備は必要となります。	既存施設を一部活用できます。	用地取得・造成が必要となります。通学路の整備も必要となります。
完成後の子どもの暮らしに関わること(ソフト)	児童生徒の安心・安全面	現状では特に問題ははありません。	学校周辺が急傾斜地等に指定されており、大雨、地震等の場合は注意が必要です。	建設場所、通学路等、安心・安全を最優先に選定することが可能です。
	通学	多くの児童が徒歩で通学可能となります。	多くの児童が徒歩で通学可能ですが、道路が狭小、急傾斜地等、改善すべき点があります。	多くの児童が徒歩で通学可能な場所を選定する必要があります。
	将来的な見通し	隣接市有地の活用により、十分な敷地面積が得られ、学校種の変更にも対応できます。	小中一貫教育をさらに充実させるための施設整備が可能です。	用地取得の際、将来のまちづくりの視点を踏まえた場所選定が必要です。
	開かれた学校づくり	浜村地区との関わりに偏らないよう配慮が必要です。	中学校も含めた開かれた学校づくりが可能となります。	公共施設の複合化等を検討すれば、地域活動の拠点となる学校づくりが可能となります。
	その他	・長寿命化改修であればプレハブ利用 ・保育園隣接	・工事期間中は騒音等、中学生への負荷	・保・小・中が全て別々の位置となる ・場所によっては、踏切や道路の整備を検討する必要が生じます。

これらを踏まえて現在統合準備委員会では、それぞれのメリット・デメリットを整理しながら議論を進めています。ぜひ、この内容について皆様のご意見をお聞かせください。